

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と改善方途

全国の小学6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」で明らかになった本校の学力の傾向、生活習慣や学習環境に関する意識についてお知らせします。また、北方小学校で学力向上に向けての改善方策をまとめました。

◆学力に関する調査の結果から

	特に身に付いている内容	課題のある内容
国語	<p>叙述や描写を基に、登場人物の気持ちを捉えるような「読むこと」の領域は力が付いています。しかし文章全体の構成や書き表し方を整えるような「書くこと」の領域に弱さが見られます。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いを理解すること ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えること ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
算数	<p>基本的な計算など「数と計算」領域についての力は付いています。「変化と関係」、「データの活用」領域の正答率は、全体の中では高めではありますが、全国や県の平均を下回っています。反復練習に加えて、問題の理解と考察する力を向上させていく必要があります。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、任意の値を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量が変わっても割合は変わらないことの理解 ・正三角形の構成について考察し、記述すること
理科	<p>昆虫の体のつくりなど「生命」を柱とする領域については、比較的高い正答率で、力は身に付いています。一方、日光の位置の変化など「エネルギー」を柱とする領域については弱さが見られます。全体的に、自分の考えを記述するなどの表現する力を養っていくことが課題となっています。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫の体のつくりについての理解 ・メスシリンダーなどの器具についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察から得られた情報等を基に、問題に対するまとめを検討・改善して、自分の考えとして記述すること ・実験で得た結果を分析・解釈し、自分の考えをもつこと

◆生活習慣や学習環境に関する質問紙の結果から

*「学校に行くのは楽しいと思うか。」 **学校の楽しさ**

91%の児童が“学校に行くのは楽しい”と回答しています。結果に満足せず、残りの9%の児童も含めて、どの子どもが楽しく過ごせる学校にしていくことが大切だと考えています。

*「将来の夢や目標を持っているか。」 **夢や希望**

86%の児童が“夢や目標を持っている”と回答しました。夢や目標を持つことが、毎日の生活にメリハリをもたせることとなります。コロナ禍ではありますが、仲間との生活、様々な体験活動等を通して、自分自身の将来像を確立していけるようにしていきます。

*「自分にはよいところがあると思うか。」 **自己肯定感**

90%の児童が自分のよさを感じています。全国や県の平均値と比較して10ptも高い結果です。自分のよさを見つけ、伸ばし、発揮できる学校づくりを、児童と教師で進めていくことが大切だと考えています。

*「人の役に立つ人間になりたいと思っているか。」 **自己有用感**

94%の児童が“人の役に立ちたい”と回答しています。さらに「友達と協力するのは楽しいと思うか。」という質問にも98%の児童が“そう思う”と回答しています。こんな素敵な北方小の仲間となら、もっといろいろなことにチャレンジできそうです。仲間との生活を通して、実績を残し、自信をつけられるようにしていきたいです。

*「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか。」「平日、1時間以上の学習をしているか。」 **家庭学習**

“計画を立てて学習できている”と回答した児童は74%，“平日1時間以上の学習をしている”と回答した児童は64%でした。小学生の学習時間は、昔から(学年×15)分と言われていています。学校からの宿題だけでなく、自主的に進める学習にも取り組めるとよいです。

*「ICT 機器は勉強の役に立つか。」「勉強のために30分以上使用しているか。」 **ICT機器の活用**

“ICT 機器が勉強の役に立つ”と回答した児童は94%，“平日、勉強のために30分以上 ICT 機器を使用している”と回答した児童は31%でした。ICT 機器は万能ではありませんが、有効に活用していくことで学習効果を上げることができます。引き続き、上手な使い方を学校で指導していきます。

◆今後の改善方策

*国語科の授業を中心に、学校生活において“書く活動”を充実させ、自分の考えをまとめたり、表現したりする力を伸ばせるようにする。

*学校の算数の授業や家庭学習において、積極的にタブレット端末を使用していく。GIFU Web ラーニングによって、日々の学習状況を把握しながら個別最適な学びができるようにする。

*「なぜ」「どうして」を考え、話し合う活動を通して、自分の考えを表現する力を伸ばせるようにする。

*仲間との活動を工夫し、協働的な学びを充実させるようにする。